

## 海外生活 だより

北京事務所

# 中国人学生が競う 日本語スピーチ発表会

(財)自治体国際化協会北京事務所所長補佐  
川島 裕志(群馬県派遣)

場所がどこであろうと海外赴任者にとって「語学力」は最も基本にして必要なツールであり、当然身につけていかなければならないものです。私自身、4月に北京に赴任してからも研修を通して中国語の勉強をしています。先日、自身の研修・勉強がまだまだ甘いものだと猛烈に反省させられるイベントに出会いました。それは、日本語を習う北京の学生による「日本語スピーチ発表会」です。この発表会に審査員として参加し、学生の日本語レベルの高さと語学習得への熱心さを体験する機会に恵まれました。今回は、その様子をご紹介します。

### 高い日本語学習熱

発表会の様子の前に予備知識を一つだけご紹介します。

2013年7月に国際交流基金が発表した「2012年度日本語教育機関調査—海外の日本語教育の現状」によると、2012年時点で中国国内の教育機関には、日本語学習者が約104万6,000人もいます。2位のインドネシアの約87万2,000人、3位の韓国の約84万人を大幅に上回り、今回の調査で初めて、世界で最も日本語学習者がいる国になりました。中国国内における時系列での比較にしても、前回2009年の調査時の約82万7,000人から20万人以上、率にして26.5%も増加しました。

ここ数年、日中関係の悪化により反日感情が強まっていることは紛れもない事実です。しかし一方で、大学生をはじめとする若年層を中心に、日本語学習者の数が増えていることもまた事実なのです。彼(女)たちの多くは、アニメ・マンガ・ド

ラマなど日本のポップ・カルチャーへの興味から日本語学習を始め、将来の就職といった実利的な理由に支えられて日本語を勉強しています。大学生を中心に日本語学習熱は決して冷めていません。

### 日本語学習者が多い上位10か国・地域

| 順位 | 国・地域名   | 2009年<br>学習者数<br>(人) | 2012年<br>学習者数<br>(人) | 増減率<br>(%) |
|----|---------|----------------------|----------------------|------------|
| 1  | 中国      | 827,171              | 1,046,490            | 26.5       |
| 2  | インドネシア  | 716,353              | 872,411              | 21.8       |
| 3  | 韓国      | 964,014              | 840,187              | ▲12.8      |
| 4  | オーストラリア | 275,710              | 296,672              | 7.6        |
| 5  | 台湾      | 247,641              | 233,417              | ▲5.7       |
| 6  | 米国      | 141,244              | 155,939              | 10.4       |
| 7  | タイ      | 78,802               | 129,616              | 64.5       |
| 8  | ベトナム    | 44,272               | 46,762               | 5.6        |
| 9  | マレーシア   | 22,856               | 33,077               | 44.7       |
| 10 | フィリピン   | 22,362               | 32,418               | 45.0       |

(出展：国際交流基金「2012年度日本語教育機関調査—海外の日本語教育の現状」)

### ハイレベルな発表が次々と

2013年11月、在中国日本国大使館において、北京日本語教師会主催の日本語スピーチ発表会が開催され、私も審査員の1人として参加しました。

このコンテストは、北京周辺の各大学から日本語専攻の39人の大学生と、特別参加の2人の中学生、あわせて41人もの発表者を集めて行われました。1人あたりのスピーチ時間はたったの90秒。これは多数の学生に参加の門戸を広げ発表の機会を持ってもらいたい、さらには参加者自身も聞き

手となってほかの発表者のスピーチを聞き勉強してほしいという主催者側の意向を汲んで設定されたものです。8～9人のグループが5組作られ、それぞれのグループからMVP賞、1等賞、2等賞を選出していきます。そして最終的には全ての参加者の中から総合最優秀賞を選ぶという形で実施されました。



スピーチの成果を披露する参加者

いざスピーチが始まると、各参加者は90秒の時間制限があるにもかかわらず焦ることもなく発表していきます。スピーチテーマは「自分の宝物」や「忘れられない瞬間」、「友人」など人によって多種多様ですが、各参加者はスラスラと流暢な日本語で、ときには抑揚を入れたり感情を込めたりして、自分の話したいことを語りかけ訴えています。自分の体験や経験、事例などを交えることで、より説得力を持たせたり、出席者の涙腺を刺激する発表を行う参加者もいました。



発表を聞く審査員や聴衆の方々

わずか90秒という短い時間の中で、それだけの内容を交え表現豊かに発表するのは並大抵の勉強ではできません。しかも驚くべきことに、発表者の過半が大学入学後に日本語を学び始めた大学1～2年生です。学び始めてからわずかな期間でこのレベルまで到達する中国人学生の優秀さや、そのような生徒が多数いる層の厚さにあらためて感心せずにはいられず、また、彼（女）たちの日本語の勉強にかける情熱や、本発表会の主催者であり、日々彼らを指導する教師の方々の教育にかける熱意を感じ取ることができました。と同時に、自身のことを顧みる機会にもなりました。

## 最後に

審査終了後、「私の宝物」という発表をした学生の1人が「今度は、今日もらったこの賞状とカードが私の宝物」と抱きしめていたという話を聞きました。今回のスピーチ発表会が、参加学生にとって日本語を勉強する上での原動力となったのであれば、これほどうれしいことはありません。今後益々彼らの日本語が上達し、将来的にはこのような学生の中から、官民間わず、日中交流の主役となるような人材が出てきてほしいと願っています。



最後に全員で写真撮影